



今、憲法問題を語る—憲法問題対策センター活動報告—

第15回 憲法改正問題をめぐる現状と対応—参議院選挙を踏まえて— —2010年度夏期合同研究第4分科会—

憲法問題対策センター副委員長 菅 芳郎 (45期)

1 選挙結果の分析

わかりやすくリベラルな憲法問題解説で好評を博している渡辺治一橋大学名誉教授の参議院選挙の分析は、ズバリ、「保守総体の勝利＝社共の退潮」であった。

長く続いた自民党政権を拒否した民心は、民主党に新たな可能性を求めたが、鳩山前首相の普天間問題の対応や政治資金問題、菅首相の消費税発言などにより、民主党を離れたものの、それが再び自民党に戻ることはなく、社民党や共産党にも求心力はなく、行き場を失って「みんなの党」に流れ込んだ…投票結果の緻密な分析により、このようにきわめて明快に総括された。

また、菅政権の特徴としては、日米合意堅持、財政再建による保守政党への回帰を指摘された。

2 憲法改正と海外派遣

それでは、憲法改正と自衛隊の海外派遣の動きはどうかというと、まず、自民党のみならず、保守新党の多くがマニフェストに改憲を掲げたことを指摘された。また、民主党の2010年のマニフェストには、憲法改正に触れる部分が見当たらないが、これは民主党が憲法改正に反対の方向に転じたものではなく、むしろフリーハンドの状態になっているとして警戒感を示された。

ただし、自衛隊の海外派遣については、当面、解釈改憲による海外派遣、海外派兵恒久法の制定等が危惧されるとする。そして、解釈改憲については、内閣法制局長官の答弁を禁止して、政治家による解釈改憲を強行しようとする手法が心配であり、9条の

解釈については、改めて、内閣法制局によって示されてきた従来の政府見解の解釈上の歯止めを重視する必要があるとされた。

3 質疑

憲法、特に9条については、参加者から改憲論も出されたが、護憲の立場からの質問や意見が活発になされた。

なお、質問者の中に、学生時代などに、9条2項に「前項の目的を達成するためには」を付加した芦田修正に関して、芦田氏本人から直接「将来の軍備に関する解釈の幅を持たせる意図で修正した」という説明を聞いたという方が2人おられ、これには参加者一同、瞠目せざるを得なかった。ただし、これに対して、渡辺教授からは、秘密会の議事録や芦田日記を読む限り、これは芦田修正がなされた当時の芦田氏の意見ではなく、後日、このような説明をするようになったとの解説がなされた。

4 9条と25条

渡辺教授は、講演のまとめとして、9条を守ることの意義と25条を生かすために政治を変える必要性を主張され、新しい福祉国家の構想をめざすべきだとされた。

普天間問題以降、日米同盟の今後のあり方が問われる中で、自衛隊海外派遣問題が再浮上する可能性もあり、また、貧困問題への対応が急務となっている今日、これらは、まさに、われわれが強い関心を持ち、議論し、対応していかなければいけない課題であろう。